

✓見直すべき発電

東日本大震災により原発から大量の放射能が漏れ出したことは周知の事実だ。しかし、放射線は名古屋でも微量ながら観測されていること、大気に乗って放射線が世界を回り続けていること、少なからず放射線を浴びた物を我々は口にしているであろうことは周知されていない。

震災後、再生可能エネルギーが改めて注目されることになる。原発問題を身近に感じたことや、政府が電力の買取りを義務化したことで人々の注目を集めた。

✓エコ発電の誤解

再生可能エネルギーにも色々な種類がある。その中のひとつのメガワットソーラー発電というものをご存知だろうか？ 大規模のソーラーパネルが設置されているのを何かしらで見たことがあるだろう。「地球に優しい」「エコロジー」と謳われる再生可能エネルギーだが、時には我々の思うものとは異なることがあることを知ってほしい。

ソーラーパネルは少しでもかけるとガクンと電力が落ちる。電力の買い取りを目的としている多くの事業者は、パネルの周りに砂利やコンクリートを敷き、強力な除草剤を撒いて草木を徹底的に排除する。環境のためではない。ビジネスとしてやっているのだ。しかし、電力も供給が増えれば価値も下がる。事業に着手した人たちは、その採算あわせをするためにパネルを増加する。山ひとつを丸ごとパネルで埋めてしまう計画もあるそうだ。エコを謳いながら本末転倒な方向に向かっているケースがあるのが実情なのだ。

✓再生可能エネルギーの様々な可能性

一昔前の田舎では、水力を今のように電力に変換するのではなく、収穫した稲のもみ殻を取るために利用していた。いわゆる水車だ。水が豊富な日本では、水力をうまく使って生活してきた。水力発電も 100 年前から存在していたのだ。

この水力発電で村おこししたケースもある。郡上市の石徹白（いとしろ）地区では豪雪地帯の豊かな水源を利用し、水力発電に取り組んだ。試行錯誤の上、取り組みは成功し今では年間 1000 万円ほどの利益を上げることができるようになった。また、人口わずか 270 人程の村に、年間約 500 人の見学者が来るようになった。地元ではカフェが運営されたり、僅かながらだが若者の移住者が来るようになったりしたのだ。

また田舎の一軒家で、水力発電だけで生活してみる試みをしてみたことがある。40cm ほどの水路に水車を設置し、発電した 30W ほどの電力で生活してみるのだ。30W とはいえ蛍光灯がつかつかないかくらいの電力だ。そのような生活でも、少ない電力をいかに大切に使うか工夫をすれば生活できたのだ。しかも、皆さんが想像するような電気に飢えたアウトドアな生活ではない。照明（LED）、洗濯機、冷蔵庫、さらにはパソコンといった通信機器を使用した生活が送れたのだ。ちなみに私たちは、毎日 600W ほどの電力を消費して生活している。

✓田舎の実情

田舎の現状を伝えるために少し過去から話したい。100 年ほど前、だいたい大正時代くらいの里山生活は、時代背景的にも非常に潤った生活を送ることができた時代だった。木を炭にして稼ぎながらも、無駄に伐採することもなく人間が自然に合わせた生活を送っていた。自然の恩恵を必要な分だけもらい、むやみに伐採しなくても十分豊かな生活が送れていた。

しかし 1950 年ごろから田舎と都会の人口比が逆転し始めた。高度成長期となり、若者は田舎を捨てて都会で仕事するようになったのだ。

それから約 70 年経ったわけだが、田舎はどうなってしまっただろう。田んぼは誰も手を入れないために一から開墾しなくてはいけないような状態になってしまった。国策として植えたヒノキも伐採に適した年数になったが放置されている。50 年の間に木材の価格がぐっと下がり、今では運搬するだけで赤字になってしまうのだ。また、道具を作るために植えた竹も、プラスチックの存在によって必要されなくなった。生命力の強い竹は、回りの木々の生長を遮るだけの「害竹」という存在になってしまった。

✓田舎に住みたい願望を持つ子育て世代

そんな田舎へ移住したいという人が増えたという統計がある。しかも 20~40 代の子育て世代の移住傾向がかなり増えているのだ。「日々を大事に生きたい。」「お金に左右されない安心した生活を送りたい。」と、目まぐるしい社会での生活を離れて、自分らしいライフスタイルを求める人が増えたのだ。実際に豊田市の田舎にも 4 年間で約 100 世帯が田舎暮らしに憧れ移住してきた。

また、自分たちで木を伐採し、田舎に家を作る企画もしてみた。こちらも 20~40 代の参加者が多数だった。完成した家は、オフグリッドソーラーシステム（電力会社との電力網が無い）で自家発電によってバッテリーに充電する。水は井戸水。火は薪を調達する。といったもので、実際にこの家で生活を送っている人もいる。詳しくは「オフグリッド 豊田」で検索してみてほしい。

✓研修者感想

- ・ 田舎への移住希望に若者が多いことに驚いた。やはり体力がある程度なのだと思う。
- ・ どんな人が田舎暮らしに憧れるのか気になった。
- ・ 毎日、何をして過ごしているのだろうか？ どうやって生活しているのだろうか？
- ・ 田舎暮らしを初めて知ったが今の暮らしを手放す勇気はまだ無い。
- ・ 人の温かさに触れて生きる幸せにあこがれる。
- ・ 子どもの育ちのためには素敵な環境だと思う。

✓講師返答

・ 田舎暮らしでの稼ぎ方は十人十色だ。ネットで稼ぐ人、土日以外は都会で仕事をする人、国や自治体の補助を活用して農業や林業に携わろうとする人もいれば、昔からやってみたかったことを仕事にしようとする人もいる。田舎だからといって不可能なわけではないのだ。

また、意外にも田舎には仕事がたくさんあり、むしろ人手不足だ。平均的に見て、移住者の目標年収は約 200 万円。田舎暮らしで 4 人家族なら、田舎のバイトだけで生活は十分成り立つのだ。

・ 病気や怪我、老後といった問題は懸念するべきところだ。近くの病院でも車で 30 分かかるなどといったことは当たり前で、救急車を呼ぶよりも自分で行ったほうが早い。また、老後懸念して病院の近くに引っ越す老人もいる。そういった空き家は、田舎暮らしを望む人の新しい住居としてうまく再生されていっている。

懸念されるのは一刻一秒を争うような事態になった場合だと思うが、これに関して言えば仕方がないと割り切れないと田舎暮らしはできないと思う。

また、子どもは何をするか分からない。毒草を食べてしまったり、蜂や蛇にやられてしまったりすることもある。親たちはネットで調べたことや経験で得た情報を近所同士で共有しあい、助け合いながら生活している。また、病院へ行くか行かないかの線引きを見極めたり、子どもたちにやってはいけないことへのルール作りをしっかりと行ったりして防ぐように努めている。

風邪などにいたっては病院に行った方がかかりやすい。それだけ元気に暮らしているのだ。

✓まとめ

人生のひとつの選択肢として田舎暮らしの素晴らしさを知ってもらいたい。都会には都会の良さ、田舎には田舎の良さがあるのだが、田舎の暮らしに触れる機会は少ないと思う。皆さんの人生が豊かになるエッセンスとして触れていただければ幸いだ。